

○事業所名	まなびクラブ武蔵中原			
○保護者評価実施期間	2025年 3月 12日 ～ 2025年 3月 31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29人	(回答者数)	25人
○従業者評価実施期間	2025年 3月 12日 ～ 2025年 3月 31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10人	(回答者数)	10人
○事業者向け自己評価表作成日	2525年 3月 31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にを行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	時間や活動ごとに構造化された環境の中で、子どもたちも職員も見通しを立てて過ごすことができている。	児童からの見え方や場面ごとの教室の使い方、導線などを考え、見通しを持って課題やプログラム、その他余暇時間に安心して臨めるよう、教室の整備と構造化を行っている。	日々の支援以外の情報発信や面談時の丁寧な説明を心がけていく。
2	職員や保護者それぞれが支援内容や課題に対して共通認識を持って支援を考えることができている。	情報の共有を職員間、保護者と職員間、職員と関係機関間で密に行うことで、相互理解に努めている。	職員それぞれが構造化や児童の見通しや支援内容の共通理解の重要性についてより理解し、支援に反映させられるよう努めていく。
3	集団療育面と個別の課題学習を組み合わせることによって、コミュニケーション面と個別の課題面について、アセスメントしやすく、児童の強みの把握と課題についての把握もしやすい。	プログラム、課題学習時間、余暇時間の場面ごとに児童情報のアセスメントを取り、情報収集をもとに課題の設定、計画作成、評価を行い、強みを生かした支援を肯定的に行えるように心掛けている。	各職員が、より児童の観察やアセスメントを的確に行えるようにすることで、より総合的に課題の設定や評価ができるようになるよう努めていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
	事業所の運営に関する情報発信や取り組み事項の周知	普段からの事業所の取り組みに加え、特に緊急時や非常時に事業所での対応が適正に行われるという安心感や信頼感を、保護者に持っていただけるよう、運営に対しての周知・説明をもっと丁寧に行う必要があると感じている。	再度、事故や災害、緊急時の対応や苦情相談をどのような体制で行うようになっているか等の、フローやマニュアルの確認を職員間で行う。 事業所運営における取組等を、情報サービスなどを通じて周知していく。 面談時などを利用し、緊急時対応について、保護者様へ不明点などの確認を行っていく。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
まなびクラブ武蔵中原		2025 年 4 月 1 日			
		チェック項目	はい	いいえ	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	5	・人数が多い日は複数の支援室に分ける、間仕切りを活用するなどして活動を行っている。 ・児童2～3人に対して職員が1人配置できるようにしている。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9	1	・一般的なマンションの為に元々の作りがバリアフリーにはなっていない。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8	2	・日によって職員の休憩時間などと重なり、空き部屋の関係で空間の確保が難しいことがある。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10	0	・運営面と療育面の双方において日々の打ち合わせと振り返りの時間を必ず設け、改善案を出して次回に生かせるよう取り組んでいる。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	1	・保護者評価表をもとに、改善すべき点を把握し改善に努めている。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	10	0	・社員やPTに関わらず、意見を述べる場を設定し、発言しやすい環境づくりに努めている。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	1	・上がった意見をもとに運営、療育の改善を日々行っている。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	0	・第三者による評価は現在受けていない。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	10	・自施設では行っているが、他施設での実施状況は分からない。 ・もっと多く研修機会があっても良いと感じる。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9	1	・保護者用のサービス閲覧システムやHPIにて公開している。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10	0	・日々のインフォーマルアセスメントと面談による聞き取りなどを総合し、課題分析、計画の作成を行っている。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	10	0	・モニタリングやサービス担当者会議、日々の打ち合わせや振り返り、児童情報の共有などを通して支援にあたる職員の共通理解を進め、支援の方向性の共有を行っている。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10	0	・個別支援計画書をいつでも閲覧できる状態にし、計画の把握ができる環境の設定、具体的な支援の実施方法の共有を行っている。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10	0	・生活面、学習面において行動観察シートや学習評価シートを使って観察評価し、支援記録や連絡帳へ記載し、複数職員の観点から認識の相違や一致を確認している。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10	0	・本人支援の項目を中心に、その他支援項目を必要に応じて設定して記載している。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10	0	・社員で現在必要な支援を検討した上でプログラムを組み立てている。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9	1	・活動プログラムの目的や現在の支援に必要な内容を検討し、支援の目的に沿っているのであれば以前に行ったプログラムを再度行うこともあるが、飽きずに行えるように内容に変化やバリエーションを持たせるよう工夫している。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10	0	・個別課題、集団での課題それぞれに対応した計画となるよう配慮しているが、集団活動が主体であるため、プログラム内容を児童の発達段階や理解度に合わせて設定し、生活課題や学習課題などのニーズに合わせて複数の支援室や小集団に分けて行うことによってきめ細やかな支援ができるよう心掛けている。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9	1	・運営と支援の両面から、情報の共有や児童ごとの支援方針などを含め必ず行っている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10	0	・児童情報の共有、支援プログラムの改善点、ヒヤリハットの共有、申し送り事項などを含め、毎日振り返りを行い、改善案を提示している。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	10	0	・サービス提供記録、日々の児童の様子共有事項、学習課題、振り返り時の改善提案について記録に残し、次回の改善に繋げている。また、当日不在の職員への情報伝達及び支援情報の共有に努めている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10	0	

	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10	0	・社員を中心に検討会議し、半年毎に行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	10	0	・4つの活動がなるべくバランスよく入るようにプログラムを設定している。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9	1	・自己決定に繋がるような場や機会をプログラムや余暇時間に設定している。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10		・担当や状況などにより、児童のことをより理解している職員を入れて会議を行うようにしている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9	1	・必要な際に医療機関、学校との連携を行えるように体制を整えている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9	1	・日々時程表を確認して連絡調整を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		10	・情報共有はないが、保護者より情報の聞き取りを行っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		10		・現在は行っていない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		10		・助言や研修を受ける機会がまだないが、取り入れていきたいと考えている。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		10		・現在は行っていない。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		10		・自施設では参加していないが、会社では参加がある。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10		・面談時や送迎時、メッセージやコメントを通じて共通理解に努めている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	5		・保護者の研修機会等は設けられていないため、必要性に応じて検討していく。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10		・初回時に説明し、齟齬がないよう努めている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10		・普段から児童からの意見や保護者からの意向聞き取りを極力丁寧に行うようにしている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	10		・面談時に内容の読み合わせと確認を行いながら行っている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9	1	・必要がある際には、具体的な改善策を含めて相談の機会を設けている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。		10		・保護者会の開催は行っていないが、必要性に応じて開催の機会を検討していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10		・情報共有を細かく行うように努め、解決策や次回対応も含め行っている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8	2		・プログラムや日々のお知らせ等はWebサービスで行っているが、周知が十分でないと感じる点もある為、発信内容の検討も含め、改善していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10		・記名されたものの廃棄、パスワードでの管理など、注意して扱っている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10		・個人の特性や配慮すべき項目について、配慮できるよう努めている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		10		施設外との交流は行っていないが、必要であれば検討する。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	2		マニュアルの整備は行っているが、実施や周知を丁寧に行っていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10		避難訓練及び、計画や記録を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	10		初回面談時の聞き取り、フェイスシートの確認、児童情報や服薬、注意点などの情報共有は開始前に必ず行っている。	

非常時等の対応	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	7		アレルギー情報は必ず共有しているが、指示書に基づく対応といった点で、見直しを行う。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10		施設内外についての安全管理事項や気を付けるポイントについて読み合わせ及び研修を実施している。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	3		周知事項について再度確認し、情報が共有されるように取り組んでいく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10		日々のヒヤリハット共有は必ず行っており、再発防止について改善案を含め職員間で周知している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	2	施設内で虐待研修を行っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9	1	身体拘束について計画書への記載及び職員への周知を行っている。	